

全国の「町医者」 取り組み紹介

第8回建設トップランナーフォーラム



冒頭、主催者を代表し、米田代表幹事が「地域建設業には防災の最前線での活動、老朽化するインフラの点検と維持、そして公共投資でインフラを整備しつつ、複業」による産業創出・雇用確保という大きく三つの役割がある」と今回のテーマを説明。「地域に存在することが安心感につながる『町医者』のような地域建設業を目指すべきだ」と述べた。

フォーラムではまず、

冒頭、主催者を代表し、米田代表幹事が「地域建設業には防災の最前線での活動、老朽化するインフラの点検と維持、そして公共投資でインフラを整備しつつ、複業」による産業創出・雇用確保という大きく三つの役割がある」と今回のテーマを説明。「地域に存在することが安心感につながる『町医者』のような地域建設業を目指すべきだ」と述べた。

フォーラムではまず、

「建設と介護の副業化で相乗効果が高まり、新たな建設需要と介護需要を取り込むことができる」と述べた。

原社長は、廃ガラスと発泡剤を混合して製造する多目的環境材料「ミラクルソル」の開発経緯や実証実験の効果などを解説した。有明海の底質改善を目的として開発した同製品を実証実験した結果、

「1面関連」建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶応大学特任教授)は2日、東京都内で「第8回建設トップランナーフォーラム」を開き「写真」、災害への対応や老朽化した社会インフラの適切な維持管理、そして地域の雇用を守るのが地域建設業者の役割であること、を全国の参加者とともに確認。新規事業や災害復旧など「町医者」として活躍する全国のトップランナーがその取り組みを紹介した。

底質に含まれる有機物や硫化物の濃度が下がったことを確認。ダム流入河川や池、食品加工場の廃水処理など活用が広まっていることも紹介しながら「新分野進出は困難を伴うが決して不可能ではない」と訴えた。

中村社長は、浜松市の学校跡地を活用して開始した浜松・いなさ太陽光発電所の概要を紹介。事業参入のきっかけが、同社が寄贈した校門が地元

上で、「非常用電源の無償提供や緊急時ヘリ着陸スペースの設置、地元住民や小中学生を対象にした現地見学説明会の開催、売電基金の一部の地元への寄付などに取り組むことで、太陽光発電を地域の活性化につなげる」と事業の意義を説明した。

その後、全国のトップランナーが複業による地域の活性化や、災害から地域を守る取り組み、老朽化から社会インフラを守る取り組みを紹介した。

来賓として訪れた林芳正農林水産相は「地域にとって農林水産業と建設業は欠かせない存在だ。建設業は農林水産業の衰退による雇用の受け皿となったが、いま建設業が農林水産業で事業を始めようとしている。6次産業化の中で『経営する』という感覚が必要であり、コストを下げつつのよう

うに売っていくのが大事。皆さんの持つ経営力を農林水産業に生かしてほしい」とトップランナーの取り組みに期待を寄せた。

官庁人事 (2日)

国土交通省
出向・厚生労働省大臣官房付(大臣官房審議官)渡延忠▽大臣官房審議官・国土政策局担当(厚生労働省大臣官房地方課長)菅谷秀信▽出向・農林水産省大臣官房付(土地・建設産業局長)塚本和男▽土地・建設産業局次長(農林水産省大臣官房付)江口洋一郎▽出向・農林水産省大臣官房付(北海道局長)永杉伸彦▽北海道開発局長(農林水産省大臣官房付)高柳充宏



めざせインフラの町医者!

地域建設業は存在そのものが安心感につながる「町医者」を目指すべき。建設トップランナー倶楽部は2日の第8回フォーラムで建設業の進むべき方向を議論した。(3面に記事)